

事業名

**飛鳥・未来・百年「未来を切り拓く子」**

目標

**地域に誇りを持ち、地域を大切にすることを育成する****1. 取組の視点**

飛鳥地域に誇りを持ち、地域を大切にすることを育成することを目標とし、そのために、幼小中・家庭・地域が協働して子どもが主体性を発揮して参画・参加できるような地域行事を実施していくことにした。行事を通じて地域の方と子どもとの交流、幼・小・中の子どもたちどうしの交流、また、地域の方と教職員との交流等、地域の中でのつながりの広がり・強化を図って行った。

**2. 取組の概要****①あすかフェスティバル 10月23日（飛鳥小）**

昨年は、インフルエンザのために中止になったが、本年度は天候にも恵まれ、盛大に実施できた。オープニングでは、幼稚園児・小学生の合唱や中学校の吹奏楽部の演奏。また、運動場では小学生のエイサーや中学生のバサラと、子ども達が活躍するフェスティバルとなった。（写真は中学生が



準備を手伝った風船を幼稚園児が大空に向けて飛ばした時のものである) 地域の各種団体の模擬店には、中学生が部活動単位でお手伝いし若い力で貢献した。また、地域の方々と有意義な交流ができた。また、当日は、幼小中の子ども達や地域の方から募集した『飛鳥校区の標語』の表彰式もあった。ちなみに本年度の最優秀作品は「ありがとう あふれる飛鳥 あったかい」という中学生の作品であった。連合自治会が主催し、地域が一体となって地域の子ども達を育てていくという、

このフェスティバルの持つ意義を再認識できた。

**②燈花会&夕べのコンサート 8月22日（飛鳥中）**

本年度で2年目になる校区少年指導協議会が主催の燈花会&夕べのコンサートが実施された。

夕方からロマンチックな灯りをともし、中庭では中学校の吹奏楽部の演奏があった。300人を超える参加者があり、たいへん感動的な時間を地域の方々と共有することができた。

特筆すべきは、中庭のステージの設営や、行灯の製作、行灯への絵の貼り付け（幼稚園児や小学生・中学生の作品）、オブジェの製作やそのための竹の切り出しも含めて地域の方と中学生、教職員が力を合わせて準備したものであるということである。「参加してよかった。」と言ってもらえるようなイベントにするために大人と子どもが協働できたことが何よりの成果である。

**3. 成果と課題**

ここにあげた2つの地域行事を通して、子ども達に、「自分たちは、このあすか地域で育てられている」、「自分たちが頑張ることで、このあすか地域に少しでも貢献できる」といった気持ちを持たせることができたと思う。また、幼小中の教職員のつながり、教職員と地域の方々とのつながり、地域の諸団体のつながり等が強化できたことは言うまでもない。今後、地域の活性化のため、また地域の子ども達の健全育成のために横のつながりの一層の強化に努めたい。

事業名

# 飛鳥大好きプロジェクト

目標

全ての生徒が「学校にいることが楽しい」と感じ、学校が大好きと実感できる学校づくり

## 1. 取組の視点

数年前、荒れが蔓延する学校の状況を建て直すため、すべての生徒が「学校にいることが楽しい」と感じ、学校が大好きと実感できる学校づくりをするために立ち上げたADP（飛鳥大好きプロジェクト）を充実させて行くこと。具体的には①花いっぱい・野菜いっぱい・緑いっぱい運動、②バサラ踊りの継承、③トップランナー講演会の開催（旧、メダリスト講演会）等で生徒が主体性を発揮して、常に前向きに挑戦し続け活動・活躍でき、仲間と共に伸びることのできる場を保障して行った。

## 2. 取組の概要

①花いっぱい・野菜いっぱい運動では、校舎前庭の大型プランターに、春と秋に生徒たちが土づくりからはじめ、花苗を植える作業を行っ



た。それらの花々は生徒自身の心にやさしさ・穏やかさを醸成さす一助にもなっている。園芸部を中心に畑で育てた野菜は、12月20日の収穫祭では「トン汁の」材料として使用した。

### ②バサラ踊り

ここ数年間の振り付けではなく新しいバサラ踊りに本年度は挑戦したため、大変な苦勞をしたが、結果的には体育大会では全校生徒で披露することができ、地域の「あすかフェステバエ

ル」や11月7日の平城遷都ファイナルステージでも披露することができた。

### ③トップランナー講演会



生徒に夢と希望を持たすため、2月7日に、元陸上競技選手の『増田明美さん』を招き実施した、やさしく、丁寧な話し方でたいへん子ども達の心に届いた講演内容であった。



## 3. 成果と課題

学校目標である『明るく笑顔がたえない学校』を目指し、多くのイベントや行事を実施して行く中で、本校の生徒たちは、「やればできる、信は力なり」ということを実感してくれていると考える。生徒を頑張らせるためには教師が頑張る必要がある。教師自身がそれぞれのプロジェクトの持つ意味を再確認する中でマンネリ化しないようにするのが大きな課題である。

事業名

**飛鳥に生きる**

目標

『ひと・もの』との出会いを通して、自ら考え、行動できる児童の育成を図る

**1. 取組の視点**

本校は、小中一貫教育パイロット校として平成23年度全面実施に向けて準備を進めている。また、ユネスコスクール加盟校として、全学年で世界遺産学習の取り組みを展開してきた。

この世界遺産学習を足がかりにして、歴史的・文化的遺産や人々の絶え間ない努力について学習する中から、飛鳥地域に生まれ育っていく子どもたちが、自分の町を再発見し、地域に誇りを持ち、地域を大切にしていこうとする意欲を高めていきたい。

**2. 取組の概要**

低学年は生活科、中学年は総合的な学習の時間、高学年は郷土「なら」科を中心に校区巡りや地域の方々からの聞き取りなどを行ってきた。

1年生では、東大寺近辺や奈良公園を巡り、「春見つけ」「秋見つけ」を行い、世界遺産に親しんだ。

2年生では、自分たちが住む飛鳥の町を友達と協力して探検した。お店や施設を訪問し、地域の人へインタビューするなどの活動を行った。そしてそこから気づいた飛鳥の町の良さを学年発表会で伝え合うことができた。

3年生は、地域の様々な「すごい」を発見する学習を行った。

奈良町探検・奈良公園の自然観察・校区内の世界遺産探検・学校の近くのお寺など、様々な視点で身近な地域資源を発見し、まとめ、発信した。



4年生では、「人にやさしい町」というテーマで飛鳥校区が障害のある人や高齢者が住みやすい町であるかを、実際に校区を歩くことで学んで

いった。

5年生では、1学期に世界遺産（東大寺周辺）を訪問し、その素晴らしさや未来に遺していくことの大切さを学んだ。2学期は地域の遺産を訪れ、調べたことを映像作品にして発信した。3学期には校区のガイドブックを制作し卒業する6年生へプレゼントした。



6年生では、世界遺産に携わる地域の職人の生き様に学び、「自分たちで世界遺産を創ろう！」と「飛鳥未来遺産プロジェクト」を行った。

**3. 成果と課題**

3年生の取り組みを通じて、自分たちが住んでいる飛鳥という町には、たくさんのすごいものがあるんだと気付くことができた。今後も継続して地域資源学習に取り組むことが大切である。4年生では、アイマスクや点字を学ぶことで障害のある人の生活を知ることができた。ただ自分たちの生活とのかかわりについて、十分深めることができなかった。5年生では、これまで知っているようで知らない地域の遺産に触れることができた。グループ間での話し合いや発信の活動を通してコミュニケーション力が養えた。

子どもたちが安全に、また安心して地域を巡ることができるためにも地域や保護者の協力の必要性を感じた。

全体を通して、6年間の系統性があるとより学習効果が高まると思われる。また、教科との連携も必要不可欠である。今後はそれらを加味した年間カリキュラムの作成に取り組みたい。

事業名

**出会いふれあい支え合い**

目標

『ひと・こと』との出会いを通して、感動する心・感謝する心・奉仕する心を育てる。

**1. 取組の視点**

平成21年度の学校評価保護者アンケート及び学校評議員の方々の意見を参考にして、地域との連携をさらに深め子どもたちの健全育成に協働で取り組める体制作りを行った。

特に、本年度実施した「あすかフェスティバル」などの各種学校行事に、地域・保護者の方々に積極的に参加していただき、子どもたちと共に活動する場面、ふれあう場面等を設定した。

**2. 取組の概要**

〈あすかフェスティバル〉

10月23日(土)

小中一貫教育校として来年度より本格的に動き出すとき、小学校・中学校が一体になり、そこに幼稚園が加わり、地域と連携して子どもたちの発表・表現活動が盛大に開催できた。学校と地域との強い結びつきから、「笑顔あふれる子どもたちの育成」に取り組むことができた。



〈奈良公園オリエンテーリング〉

11月12日(金)

春日野園地にて、小学校・中学校(1年生)合同の活動を実施した。学年を越えて協力し楽しむ姿が印象的であった。地域・保護者の方々には、道々で安全確保に関わってもらい、公園では子どもたちの活動を温かく見守っていただいた。



〈飛鳥こどもミュージアム〉(校内作品展)

12月1日(水)～12月7日(火)

保育園児・幼稚園児・中学生や学年行事等でお世話になったゲストティーチャー・地域の方々が、作品鑑賞に来校された。子どもたちの制作に取り組む心や姿勢が、作品に表れていて感動したなどの声があり好評であった。

〈ふかしイモ〉

1月27日(木)

駅伝大会終了後、地域・保護者の方々の協力をいただき、全員で「ふかしイモ」を食べて寒さを吹き飛ばした。当日は幼稚園児の参加もあり、共に食する子どもたちの笑顔が印象的であった。

**3. 成果と課題**

本年度は、子どもたちと地域・保護者の方々との交流を中心に展開してきた。参加者にも恵まれ実りある行事が実現できた。

地域と学校が共に子どもたちを育てる行事は年間数回行われるが、地域の高齢化が進むにつれて、実施していく事前準備に時間がかかりすぎる。今後、内容の深まりと広がり、スピード感が必要である。また、地域の方々と子どもたちの出会いやふれあい、協働活動が実現できるような企画・運営に取り組んでいく。

事業名

## 笑顔いっぱい飛鳥の子

目標

心も体も弾ませて、意欲的に活動する幼児の育成

### 1. 取組の視点

人格形成の基礎が培われる幼児期に、感動体験を味わうことで感じる心が育ち豊かな心が育まれる。

本事業は、「笑顔いっぱい飛鳥の子」と設定し子ども達が、①いろいろな人のお話や音楽などを聞いて、心を豊かにし表現意欲を育てる。②体を十分動かして遊び、やる気やチャレンジする心をもって意欲的に遊ぶ。③身近な環境に関わり、実際に見て触れて、味わって感じる心を育む。などの体験を積み重ね、地域の方や保護者の協力を得て楽しい園作りに努める。

### 2. 取組の概要

〈英語で遊ぼう〉

奈良教育大留学生の温かい人柄に触れ、楽しく英語で挨拶したり、歌ったり踊ったり、絵カードを見て動物や花や色の名前等身の回りにあるものを英語で話したり、絵カードでゲームをしたりして楽しく外国語に関心を深めた。



〈お話の会〉

地域の方にパネルシアター、手遊び、絵本の読み聞かせ、素話などを聴く経験をして、子ども達は、お話の世界に心を膨らませてワクワク、ドキドキしながらイメージを広げ心を豊かにするとともに話を聞く態度も育ってきた。

〈サッカー遊び〉

コーチの指導に心をワクワクさせ体を動かして遊ぶ心地よさを簡単なルールを守って遊びを進める楽しさを味わった。

また保護者が温かく見守り応援して下さる機会となって親子の会話の広がりも感じられた。



〈栽培活動〉

園内の清掃や花壇や畑を整備し自分達で生活の場を整えていくことや、栽培活動を通して世話をしたり植物を育てる大切さや、収穫の喜びを感じることができた。



### 3. 成果と課題

本年の事業をさらに継続して子ども達の笑顔がたくさん見られる園にすると共に、未就園児や地域の高齢者の方々をどんどん幼稚園に招いたり、保護者には園生活の様子や子どもの育ちを感じられるように写真などを掲示したりして幼稚園教育の大切さを発信したい。